



六郷中だより

六郷中学校だより 第10号
令和 3年 9月22日
発行・文責：校長 深澤裕治

<六中HP>



桜樹祭の実現と成功に向けての粘り腰！

台風14号の接近により、全日程が9月19日(日)に延期となりましたが、空が青く澄みわたった秋晴れの下、第59回六郷中学校の学園祭「桜樹祭」が開催されました。今年度の桜樹祭は、全国ならびに県内において新型コロナの感染者が急増したことに加え、9月12日まで市川三郷町がまん延防止等重点措置の対象地区に指定されたため、今まで以上に感染防止対策を講じての桜樹祭となるよう、数々の制約と制限を行っての開催となりました。

まず検討したのが「日程の変更」でした。当初、9月11日(土)の開催を予定していましたが、まん延防止等重点措置の対象期間中は桜樹祭の実施が難しいため、9月18日(土)に延期としました。そして幾度となく検討を重ねたのが、多くの場面で3密となる桜樹祭の内容そのものです。実際の取組がスタートしてからも、活動自粛の要請がありましたので、「内容の削減と変更（縦割り活動・ファイナルセレモニーの中止軍手をしての競技）」「取組時間の縮小（朝練・放課後の延長の廃止）」「参観される皆さんの人数制限と参観制限（発表する生徒のご家族2名以内）」等、さらなる感染防止対策の徹底をはかり、安心と安全の中で桜樹祭の実現と成功を目指して苦渋の判断を積み重ねた結果が、今回の桜樹祭の内容となりました。

さらに、今回の桜樹祭は多くの制約や制限がありましたので、生徒たちが例年のようにモチベーションを持ち続けながら取組を積み重ね、桜樹祭の当日を迎えられるかが、一番心配されることでした。しかし、六郷中の生徒が見せたのが、新型コロナの逆境を乗り越え、桜樹祭の実現と成功に向けての『粘り腰』でした。生徒たちは感染者が急増している状況を理解し「直感に頼るのではなく、正しく恐れる」ことと「桜樹祭の実現と成功」の両立を探るといった、まさに逆境に決して負けることのない、六郷中学校の生徒のたくましさの可能性を、桜樹祭の数々の変更があった取組や当日の主体的な活動をとおして感じる事ができました。

今回の桜樹祭のテーマは「宇宙（そら）～無限大の可能性～」。

「宇」は空間的な広がりを、「宙」は時間的な広がりを表し、「宇宙」とは膨大な時空の広がりを意味するそうです。生徒たちの熱い思いが、桜樹祭を成功させたように、生徒たちの可能性が大きく広がっていくことを期待しています。桜樹祭の開催にあたり、数々の変更や制限に対して、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。



アルミ缶回収活動へのご尽力に感謝！

毎年、桜樹祭の閉祭後に打ち上げ花火を上げています。今年は残念ながら新型コロナの感染防止の対策としてファイナルセレモニーを割愛しましたので、花火の打ち上げは延期となりましたが、平成24年度より生徒会が「花火を打ち上げるプロジェクト」としてアルミ缶や牛乳パックの回収の呼びかけを始めた取組です。もちろんご家庭のご協力あっての取組ですが、地域にお住まいの上田敏彦さんには、当初から本校の取組にご賛同をいただき、アルミ缶の回収ならびに花火の打ち上げに多大なご尽力をいただけてきました。今年度、このプロジェクトも、10年目となりますので桜樹祭の開祭式の折に、学校ならびに生徒会から感謝状をお渡しいたしました。上田さん、10年間ありがとうございました。

